



ペン



マグカップ



ワンカップ

KAORU YUZE

AGE

40

家族旅行



地域ケアそ^うか
訪問介護サービス提供責任者

今号の表紙

湯瀬 薫さんの
6つのこと



カミソリ

訪問介護



20歳のころに山形から出てきて、最初は床屋で働きました。当時は「カリスマ美容師」が大ブームで、きらびやかで、かっこよく見えて、自分も……モテたいなって(笑)。師匠はとても厳しい人で、そんな自分は怒られてばかりだったけど(笑)。師匠からいただいたカミソリは今でも大切に使っています。

直接ひとの助けになる仕事をしてみたいと思うことはあったのですが、23歳の時に母親を亡くして、それが大きなきっかけとなって、床屋を辞めて福祉の世界に飛び込みました。

介護職として「杜の家やしお」に入って、それから15年間ずっと特養に勤務して、今年6月、「地域ケアそ^うか」に異動してきました。訪問介護は初めて。高齢者だけでなく障害のある人のケアもするので、いろいろな人とかかわる機会があって、大変だけど楽しい。ご自宅にお邪魔して暮らしぶりにふれたり、その空間でたくさんのお話ができるのも、新しい楽しみのひとつですね。自転車で町を走るのも単純に気持ちいいですよ。筋肉痛に苦しみながら日々爆走しています。

事務所では毎日コーヒー。愛用のマグカップは今回の異動の際に「杜の家やしお」の職員さんからいただきました。デスクで使ってるペンも、6年前、異動でユニットを移るときに同僚たちがプレゼントしてくれたもの。お酒好きの自分のために、酒樽の木を使った逸品を探してくれて(笑)。お酒は強くないし量も飲めないけど、好きです。なんでも飲むけど、仕事から帰って家で飲むワンカップは最高。お店は赤ちょうちん系。草加で見つけたモツ煮込みのおいしい居酒屋で、同僚とたまに飲んでます。

休みの日は家族と過ごします。長期休暇は、山形に帰郷したり、大阪に遊びに行ったり、泊りがけで家族旅行に出かけることが多いですね。自分が貧乏育ちで小さい頃はそういった機会もなかったので、娘はできるだけ旅行に連れていくってあげたいなと思っています。



「能力開発支援金」を使って准看護師を取得! ゆりこ 子育てしながら働く 本橋百合子さんインタビュー

現在「杜の家やしお」の看護職として働く本橋百合子さん（41）は、2013年に入職してから今年の3月までの10年間は、同施設の介護職だった。入職のきっかけは、当時2歳の子どもをあずけながら働ける場所を探していたことと、義父母を介護するために保有していた「ホームヘルパー2級」を活かせること。「なんとなく」介護の世界に飛び込んだ。介護職として時短勤務で働きながら、子育てと義父母の介護をする忙しい毎日を送った。そんななか、少しづつ医療分野にも興味がわいてきて「学びたい!」と思うようになったが、「学校に行く時間がない……」と思いながら数年が経った。義父母を見取り、子育てがひと段落したところで「今だ!」と思い、法人の「職員能力開発支援金制度」で学費を支援してもらい、准看護学校に通うことを決めた。眠気と戦いながら仕事と勉強を両立し、2023年3月に准看護師の資格を取得。4月から看護チームに配属となった。

異動して半年が経ち、看護職としての責任の重さを感じている。「医療も勉強して終わりではなく、経験を積むことで知識が身につく。与えられた業務をするだけではなく、変化に対応できる看護師になり

たい」と話す。介護職やリハビリチームと積極的に連携するなど仕事に前向きだが、「忘れっぽいしドジなんです(笑)」という一面も。「うつ

の経験もあります。

でもぜんぜん隠してないです!と明るく自身をさらけ出す。そんな本橋さんだからこそ、多職種をつなぐ役割を担えるのだと思った。



photo: 杜の家やしお 犬飼桃子

インタビュー中に「1つだけいいですか?」とせきを切ったように話しだす。「福祉楽団の良いところは、時短勤務でも研修に参加させてもらえるし、制度を利用して介護福祉士や准看護師の資格も取得することもできます。同じような主婦(夫)の人にぜひ伝えたい!」と声を大にして魅力を伝えてくれた。

text:
杜の家やしお
鈴木鮎美

ケアコラボを見て“できるようになったこと”の多さに驚く みお 渡邊未桜さんご家族インタビュー

職員の髪型が変わった時や靴を新しくした時など、ちょっとした変化にすぐに気づいてくれるのは、「杜の家なりた」の子どもデイサービスを利用している渡邊未桜さん（15）だ。

2016年の開設当所から利用されている未桜さんは、平日の放課後と土曜日の日中を「杜の家なりた」で過ごしている。今までこそ活発でおしゃべりな印象を受けるが、以前は「しゃべることもあまりしなかった」と母の弥生さんは言う。感覚が過敏で、なにかを触るのが好きではなかったり、口から栄養を摂ることができず経鼻経管栄養のチューブをつけていたりと、生活するうえでの困難もあった。しかし、7年間で少しづつ変化があった。過敏な感覚は、日常生活では問題ないほどになり、食事はスプーンを持って口から食べられるようになった。



歩行器を使えば、施設の周りを何周もできるようになった

施設は放課後や休日を過ごす場なので、家庭や学校と比べると生活への影響は小さく見られがちだ。だが、ここでの経験が生活の幅を広げるきっかけになっていると弥生さんは言う。「家ではできないことをやらせてもらっています。皿洗いや買い物のセルフレジとか」。「(ケアコラボを見て)カラオケ歌えるんだ!と衝撃でした。あと、プールの時は、頭から水をかぶった!と驚きました。前は顔に水がかかるのも嫌だったのに」。



利用当初、母の弥生さんは「何をどうしたらいいかわからなかった」と話す

高校卒業まで残り約4年半。弥生さんは「とにかく楽しんで過ごしてほしい」と願う。私たちはその想いに寄り添い、未桜さんにとって「杜の家なりた」が、楽しくチャレンジできる場であるように支えていきたい。

text:
杜の家なりた
浅賀友子



デンマークへ視察 ー4つの社福が合同で実施ー

10月29日から11月5日にかけて、デンマークに職員6名を派遣して視察研修を行いました。この研修は、みねやま福祉会（京都府）、愛川舜寿会（神奈川県）、ライフの学校（仙台市）と合同で行いました。視察先は「フルケホイスコール」と呼ばれる国民高等学校や、子どもを森の中に連れていくそこで保育をする「森のようちえん」など5か所です。春先から何を学びたいかから議論して視察先を決めていき、視察後に活発に意見交換することで刺激的な研修になりました。（理事長／飯田大輔）

■ デンマークってどんな国？

デンマークの人口は596万人、国土の面積は4.3万平方キロメートルです。九州くらいの面積のところに千葉県と同じくらいの人が住んでいるといったイメージです。高齢化率は20.5%だそうで、日本の高齢化率29.1%と比べると、デンマークは若くてコンパクトな国ということがわかります。高齢者施設への入所は、1日に8回以上、訪問介護が必要になっていることが条件だそうです。日本よりハードルは高そうです。印象的だったのは、コペンハーゲンの街の中にある「クリスチャニア」という「自治区」です。独自の文化やルールを持ち、その地区のストリートでは大麻が公然と売られています。大麻の独特の匂いが立ち込める街のなかの素敵なレストランで食事をしながら、視察のまとめや意見交換を行いました。

text:
杜の家くりもと
谷川真行



クリスチャニアのレストランで意見交換

■ フォルケホイスコール

フルケホイスコールは、17.5歳以上あれば誰でも入学できます。試験はありません。今回、訪れたエグモントホイスコールは、障害のある人との人が共に学び生活する寄宿生の学校です。学生215名（うち、日本人留学生6名）が在籍しています。授業はスポーツや芸術など約80科目から選択できます。学生のうち48名が介助の必要な学生で、障害のない学生が雇用関係のもと介助します。介助する学生には時給3千円が政府から支払われるそうです。介助を受ける学生が「ヘルパーであり友人」と話していました。そこには対等な関係があり、共生社会の礎ができていると感じました。私も目の前の人をありのままに受け止め、対等な関係を築いたケアを目指していきたいです。

text:
杜の家なりた
濱屋敷 勉



洋裁の授業の様子

■ 森のようちえん

子どもたちは、朝、保育園に集合したら保育士とともに森まで歩きます。10時から15時の約5時間迷子になるくらい広い森で、晴れの日も、雨の日も、外で自由に過ごします。保育士はテントや救急箱などを背負っていきます。私たちが見た森のようちえん「スコウスネッペン」は、3~6歳の子ども22人のグループに、ボイスカウトなどの経験がある保育士3~4人が一緒にいました。切れ味の良いナイフやノコギリの使い方を教え、自由に使わせていることはとても印象的でした。日本の保育は“あぶない”といって安易に制限してしまいますが、積極的に“経験する”ことの大切さを感じます。私も経験から学ぶ、「失敗」を成長につなげられる、そんな保育をしていきたいです。

text:
杜の家やしお
大内 幸



ノコギリを使って木を伐る子どもたち

TRAINNING



入職2年目の職員研修は非日常的なグランピング施設で原点回帰！

10月23日、入職2年目の職員13名に研修を行いました。全3回で構成し、研究テーマをとおして「ケアがおもろくなること」を目指します。初回のこの日は、柔軟な発想ができるように、「ザ・ファーム」というグランピング施設で1泊2日の開催です。初日はグループワークを中心



心に、1年間で取り組んだことの共有や理念の再確認をし、晚ごはんのBBQでは夜通し仕事への想いを語り合いました。翌日は理事長の飯田さんによる「ケア原論」の講義。「今やっていることや思考を言語化できた」などの感想が聞かれました。私は入職3年目で事務局をやらせていただきましたが、飯田さんの「君たちはまだ生卵で良い」という言葉を聞き、私もまだまだ固まらずにがんばろうと思いました。

text:
杜の家なりた
山本詩菜



実糀パークサイドプロジェクトが着工! 「大規模多機能」の拠点に 千葉県習志野市ー

実糀パークサイドプロジェクトは、児童養護施設や一時保護所などからなる「実糀パークサイドハウス」と、高齢者グループホームや、要介護の高齢者が「通い」「泊まり」ができる施設「実糀パークサイドテラス」を整備するプロジェクトです。さまざまな理由があって、お家で暮らせない子どもや、認知症や要介護のお年寄りの暮らしの場になります。また障害のある人が通ってきたり、働く場になります。実施する事業は10以上となり「大規模多機能型」の福祉施設になる予定です。こうした複合的な施設は、全国的にも聞いたことがあります。子ども分野では、これまで虐待が起きてから「その後」の対応を福祉施設が行つきましたが、これからは子育てを支援したり、

里親を支援していく役割が求められています。高齢者の分野でも、困りごとは、病気やお金のことなど、さまざまなことが絡まり合っています。なので、福祉施設も多様な人に対応できるようになっていくことが求められています。多機能にすることで、スタッフもいろいろな経験を積むことができ、スキルアップも期待できます。計画地は「千葉県立実糀高校」のすぐ目の前で、隣には「屋敷近隣公園」がある好立地です。その名のとおりパークサイド。9月7日に児童養護施設などの暮らしを経験したことのある若者とともに起工式を行いました。2024年秋の開設を目指して本格的に工事がはじまっています。



text:
理事長
飯田大輔

[実施予定の事業] 児童養護施設、高齢者グループホーム、一時保護所、看護小規模多機能居宅介護、子どものショートステイ、放課後等デイサービス、児童家庭支援センター、就労継続支援B型、居宅介護支援・訪問介護など



仮設事務所が建ち工事が進んでいる(2023年11月22日撮影)



「OUR KIDS 基金」寄附金の募集を開始しました

児童養護施設「実糀パークサイドハウス」の総事業費は15.4億円です。そのうち、国庫補助は約3億円。残りは借入金によって賄います。子どもたちの「当たり前の暮らし」を実現するために、寄附金の募集を開始しました。社会的養護が必要な子どもたちは、「マイナス」からのスタートを強いられています。保護されたり、施設入所ができても、下着がお古だったり、定員オーバーの状態の施設での生活となっています。「スマホを持ちたい」「大

学に行きたい」「実家のように帰る場所が欲しい」などさまざまな当事者の声を聴いています。私たちは、そんな思いを実現させていきたいです。大人の都合で奪われてしまった子どもたちの権利や日常。それらを回復していくためには、生活を整えていくことが何より重要です。そして、たくさんの人のつながりが、彼らの生きる希望につながります。子どもを社会で育てる“私たちの子ども”として「OUR KIDS基金」へのご協力をいただければ幸いです。

ご寄附をありがとうございます

2023年11月27日時点

[ご寄附の総額] **6,682,337円**

[ご寄附者の人数] **88名**

(うちお名前の非公表など25名)



text:
実糀パークサイドハウス 開設準備室
藤堂智典



松原由美さん

早稲田大学
人間科学部 教授



みよだ
御代田太一さん

元救護施設生活支援員

私たちは未来があると信じるからこそ頑張ることができます。子どもは社会の未来であり、社会の希望だ。しかし少子化が進むほど、少数派の子どもの声は社会に届きにくくなってしまう。親と暮らせない子どもの声は誰が代弁するのか。私たち大人が、子ども達に代わって声をあげなければなりません。福祉楽団と子ども達を、心から応援しています。

応援メッセージありがとうございます

新刊発売中です!



よるべない100人の
そばに居る。
(河出書房新社)

そのほかにもたくさん
の応援メッセージを
いただいている。

OUR KIDS 基金
Facebook

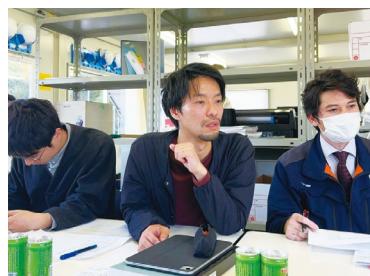




福祉施設をつくるのではなく、この街の風景をつくる ツバメアーキテクツ 千葉元生さんインタビュー

「実穂パークサイドハウス」の建築設計を手掛けているのは、「ツバメアーキテクツ」という建築家集団だ。今回はその立ち上げメンバーの一人である千葉元生さん（37）にお話を伺った。

千葉さんは千葉県生まれで、東京工業大学の出身。大学卒業直前に東日本大震災があり、それがきっかけで、自分の暮らしが原発に依存していることなど、現代社会の構造的な問題に気づき、建築を生み出す枠組みそのものについて考えるようになった。福祉施設も興味のひとつだった。「施設は、本来は“住む場所”なのに、“管理のしやすさ”の視点で建てられている」。大学卒業のタイミングで、友人の山道さんと西川さんと設計事務所を立ち上げた。単に建築の



デザインをするだけではなく「今、ここに、どんな空間をつくるべきなのか」その前提となる枠組みから考えることを大切にしている。

「実穂パークサイドハウス」は、フェンスがなくて誰

でも入ってこられること、建物は“ふつうの家”的ようにつくる一方で、子どもたちにも目が届くようにすることなど、議論を重ねて設計している。完成後の想いを聞いた。「最終的には多様な人たちが同時に居られて、人が自然に集まる場所になればよいなど。敷地が広いので、障害のある人が農作業をする風景、子どもたちが元気に遊んでいる風景、それらを高齢者が眺めながら暮らしている風景。この場所をうまくつかうことで活動が外にあふれ、活動が蓄積されてこの街の風景につながる。職員さんにはここをうまく活用してもらい、みんなが自然にすごせる場所をつくってほしい」。

施設をつくるのではなく、この街の風景をつくること。このことは「ケアを考えることが、福祉や国を変えることにつながる」という、福祉楽団の理念そのものだと感じた。これからできていく建物がますます楽しみになる。



施設の柱には香取市のスギをつかう

text:
コーポレート統括部
原田貴征



インド・ケララ州にある緩和ケア病院で研修を受講 世界保健機関（WHO）の地域ボランティア養成プログラム

2023年10月14日から20日に、福祉楽団の職員2名と外部の有識者を含めた6名で、インド南部のケララ州へ視察研修を行ってきました。私たちが訪問したのはコジコデという町にある緩和ケア病院です。ここでは、地域住民に、基礎的な介護技術や患者理解のためのグループワークなど2日半のトレーニングを提供しています。これらの取り組みは、WHOの「コンパッショネット・コミュニティ」として世界に紹介されています。おもしろいのは、これらのトレーニングを受けた人の中から生まれる自由な発想による活動を支援していることです。活動があって、ボランティアを育成するのではなく、住民を育て、そこから生まれる活動を支援するという考え方です。住民を信頼すること、トレーニングを受けた人を増やし地域を育てることを大切にしています。

「実穂パークサイドハウス」でも、このモデルを実装したいと考えています。習志野市には、たくさん



学生たちと同じ講座を受講した

の高校や大学があり、多様な地域住民が暮らしています。「お隣さん」との関係が希薄になる昨今、ここが接点となって「お隣さん」が増えていいかと思います。地域の人を育て、エンパワメントしていくことが、専門職の役割なのかも知れません。そのほかにも、死生観を語り合う「デスカフェ」や在宅患者の訪問診療にも同行し刺激の多い5日間でした。核となる考え方は、専門職としてではなく、あくまで「隣人」としてできることを

“自分”で始める」ことです。



text:
杜の家なりた
須藤 結

// 私も修了証を取得しました //

研修では特に学生との交流会が印象的でした。彼らに『コンパッション』について聞くと、「解決に向けた活動をしていくなかで、ずっと探し続けていくもの」と語ってくれました。

それぞれの意思で、自由にボランティアに取り組んでいる姿に驚きです。この考え方を私たちも広めていきたいです。

text:
実穂パークサイドハウス
開設準備室
藤堂智典



COVER STORY

地域ケアそうか 訪問介護 サービス提供責任者

湯瀬 薫さん



写真は、黄色い旗を持つて登校中の子どもたちを見送る、なんだか“湯瀬さんらしい”と思えるシーンです。湯瀬さんは「杜の家やしお」の開設後まもなく転職してきたので

勤続16年ですが、不思議とフィーチャーされる機会がありませんでした。その理由や写真の“らしさ”は、良い意味で主張しないことにあると気づきました。でも実は「もっとふざけたい」という願望があるようで(笑)。これから湯瀬さんが楽しみです。



text:
コーポレート統括部
原田貴征

VOICE

ご利用者やご家族などからハガキやメールなどで寄せられた「声」に対して、職員がお答えします。

ご意見

【杜の家やしお／特別養護老人ホーム】

施設では換気のためとはいえ網戸が無い窓も開けており、利用者が蚊に刺されて困っています。

お答えします



石間 太朗

杜の家やしお
施設長

感染症対策として窓を開けて換気を行っておりますが、ご負担をおかけし、申し訳ありません。窓用の防虫剤を使用して効果を検証するとともに、ほかの対策も検討してまいります。

※掲載しているご意見の内容は個人情報の保護の観点から編集をしています。

視察の受け入れ

ご来訪ありがとうございました

【期間：2023年5月1日～2023年10月31日】

千葉県立飯高特別支援学校(8名)、帝人ソレイユ(2名)、香取市役所(10名)、生活クラブ(4名)、千葉大学(6名)、希桜会(1名)、法務省(6名)、農林水産省(4名)、つくばね会(41名)、厚生労働省・文部科学省・内閣府など(9名)、関東社会就労センター協議会(14名)、公明党議員団(12名)、淑徳大主催イベント県内高校生(18名)、千葉県立小見川高等学校(16名)、日本社会事業大学大学院(12名)、香取市地域おこし協力隊(15名)、神戸市市議会議員(12名)、植草学園大学(5名)、東京大学(5名)、木更津市社会福祉協議会(24名)、二葉看護学院(9名)、袖ヶ浦市観光協会(24名)、みねやま福祉会(2名)、南高愛隣会(1名)、上智大学(1名)、亞細亞大学(1名)、東海大学(1名)、早稲田大学(1名)、神崎町議会(1名) ※順不同・敬称略

TOPICS

01 ヤマト福祉財団 小倉昌男賞を 飯田大輔が受賞

クロネコヤマトの宅急便の生みの親である小倉昌さんの名を冠した賞で、障害のある人の仕事づくりや雇用の創出などを進めてきた人に贈られます。当法人の理事長飯田大輔が、第24回となる2023年度の受賞者に決定しました。贈呈式は、12月7日に、日本工業俱楽部大会堂(東京・丸の内)にて行われました。

02 4年ぶりの夏祭りを開催

コロナで中止していた夏祭りを各施設で開催しました。「杜の家くりもと」では太鼓やお囃子、「杜の家なりた」は獅子舞、「杜の家やしお」では花笠音頭が地域の方々によって演舞され、たいへん盛り上がりました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。

03 「はたらくデイ」開始しました

2023年8月から「栗源第一薪炭供給所」(香取市)の一部エリアを利用して、高齢者が通ってきて、職員と一緒に「はたらく」デイサービスを開始しました。サツマイモのツル切りや選別などの作業を行っています。これまでのデイサービスでは見えなかった高齢者の「持てる力」が見えて、共に働く仲間のよき関係性ができるています。面白いです。



ご寄附をありがとうございました

【期間：2023年5月1日～2023年10月31日】

梅澤明子、富岡豊、川上嘉明、田中耕太、中村誠洋、宇井正一、濱名英倫、向後仁志、岩田俊夫、本宮曜、石間福子、原田祐馬、小河光治、片山智美、向後保雄、堀田聰子、高橋久美、木内智紀、石井秀則、御代田太一、鶴領太郎、永嶋布美、本川達雄、星川望、今井丈仁、真田雅、久米隼人、志賀久美子、鈴木麻紀、斎藤幸平、今西邦仁、本橋新一郎、光城元博、高野麻結子、松井周星、石久美、勝又恵里子、小田卓也、久古賢一、松原由美、高木達恵、田中一平、井上由起子、大久保夏樹、畔蒜真知子、小山田桃香、興梠光冠、椎名アサ子、小林香織、麦屋高広、馬上丈司、貴田美津子、原元利成、石川真祐美、会田幸子、佐藤義勝、齋木貞夫、高橋真理子、吉羽房子、飯嶋利夫、高橋初江、香取秀雄、平山初子、田原明夫、島村たか子、岩崎忠之、曾田進、田嶋夕紀、瀧澤政美、TUGBOAT PROJECT 前田紗希、こども応援団マイカ、生鮮スーパーゼンエー、堀川産業、アーカス、じゃばん亭草加長栄店、じゃばん亭草加松原店、コープデリ草加センター、獨協大学、小松製菓、みのりや米店、富野工務店、ウーレン、アーク日本、香取地区更生保護女性会、Mode Collection、hair&face Little Leaf、hair&face ef、吉田奈美子、吉田拓実、香取市高齢者クラブ栗源支部、山口農場、ベストサポートその他お名前の方公表など 27名 ※順不同・敬称略